

邊にて稀に漁することあり、大小あれども、其形狀は鮭の如くにして黒班あり、ひらたくして長き魚なり、予は己未の年十月、始て一尾を得て食せしに、肉至て和らかにして軽き魚なり、味ひも上品にして無毒の魚なるべし。

〔毛吹草三〕近江 湖水鮭 信濃 水鮭

〔新撰字鏡〕鮭 鮭祖本反、上、万須

鰐万須

〔段注說文解字〕鮭十一下鮭赤目魚也、魚也、陸璣釋魚曰、鮭、毛塵曰、鮭大、郭璞皆云、鮭似鱈、大眼、从魚尊聲、意損切、十部

〔本草和名〕鮭蟲魚鮭魚鉗卷一名赤目魚、一名赤目鱈、出七卷一名鰐

食經、必、苑、和名末須、兼名苑云、一名鰐、必似鱈而赤目者也、

〔箋注倭名類聚抄〕鮭八魚按廣韻云、鮭才本切、在二十一混屬從母、慈損在二十一混屬精母、撰在二十八獮屬牀母、並不與廣韻合、略中按爾雅鯔鮭、郭注云、似鱈子赤眼、九罰傳云、鮭大魚也、兼名苑注蓋

本於此、爾雅翼、鮭魚目中赤色一道橫貫瞳、今俗人謂之赤眼鮭、食螺蚌、多祇獨行、亦有兩三頭同行者、極難執、見網輒遁、李時珍曰、鮭魚處々有之、狀似鱈而小、身圓而長、鱗細于鱈、青質。

〔類聚名義抄十〕赤魚 マス 鮭マス、鰐マス、鰐亦 鰐音必、フナ 鮎マス、鮎 フナ

〔下學集上〕鮭氣形鮭マス

〔東雅十九〕鮭中或說にマスとは、其味の鮭魚に勝りぬるをいひ、略中江家次第、年中行事秘抄

に腹赤は鮭魚也と見えたり、さらば古にはマスをば腹赤といひしなり、朝鮮の方言によるに、此にマスといふは、彼にいふ所の松魚也、此物の如きも、古の時には呼びにし名のありしを、後に韓地の方言によりて、松魚を呼てマスノイヲといひし事、たとへば古にはアカメといひしもの、後にはタヒといふが如くなりしも知るべからず、

〔本朝食鑑七〕鮭河湖有鱈鮭慈損切、